

平成22年度 茶園関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成22年10月25日(月)にB・nest(ビ・ネスト)演習室1において開催された。

この検討会には、試験場関係者7名、委託関係者3名

ほか、計13名の参集を得て、除草剤1薬剤(5点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成22年度 茶園関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. All-01 液 グロホネートPナトリウム塩 :11.5% 〔*明治製菓、 北興化学工業〕	茶	適用性 継続	静岡 茶業 京都 茶業 香川 満濃 宮崎 茶業 独 野茶研(枕崎) (5)	おらい 育苗期・畦間・株間処理 対象 雑草 一年生/科 全般 一年生/葉 全般 多年生/科 --- 多年生/葉 --- その他 --- 設計 薬量 (水量) /10a 畦間・株間散布 育苗期・雑草生育期(草丈30cm以下) 300ml <100L> 500ml <100L>	・展着剤不要	実・ 継	実) 〔一年生雑草〕 ・幼木(樹高30cm以上)、 雑草生育期(草丈20cm以下) ・300~500mL<100L>/10a ・茎葉処理(畦間・株間処理) 注) ・処理当年には摘採しない ・幼木園で使用する ・除草剤専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、茶樹 の芽や葉にかからないように 散布する ・薬液が付着した茶葉は黄化、褐 変、落葉などの症状を生じる場 合がある 継) ・薬害が強まる条件について (樹高、苗質など) ・複数回処理での安全性について